



りっとう

立冬（7日）… 裏庭の柿がおいしそうに色付いていきます …

柿は一年おきに実るのが一般的ですが、ここ数年、裏庭の柿は毎年おいしい実りを届けてくれています。先日の樹木剪定の業者さんによれば、収穫の際に枝の剪定がうまくできているからではないかとのことでした。今年の収穫はいつになるのでしょうか。お楽しみに。

<山茶始開 つばきはじめてひらく 11月7日～11日>

立冬の初候は「山茶始開」です。読みは「つばき」ですが、山茶花（さざんか）が咲き始める頃です。早いもので、暦の上では、季節はもう冬を迎えています。

<走りたいし、友達とも遊びたいけれど…>

子どもは、走ることに友達と関わることが大好きです。2学期になって年少児は、友達への関心が少しずつ出てきて、園庭に出ると走りたい気持ちと友達と関わりたい気持ちと一緒に、友達に声をかけて反応してくることをおもしろがり、追いかけてこをすることを楽しみ始めました。しかし、友達との関わり方やうれしくて発する叫び声、無秩序な走り方も危険で、課題が山積みの状況でした。

<気持ちは受け止めつつ、行動の背景に迫る指導を>

幼稚園教育の大きな特徴は、まず幼児理解から始めることです。年少児のこの状況を、遊び方に課題はあるものの、その背景にあるのは、友達と関わりたい気持ち、体を動かしたい実態があると捉えるところから始めるのです。そこで私たちは、子どもたちの実態に応じた安全で友達との関わりが楽しめる遊びにする指導を模索していきました。

<安全で楽しい遊びに向けて>

安全対策としては、築山を走り回るので、木の根っこなどにつまづかないように、土を盛ったり、危険な根を切ったりする作業を子どもたちと一緒にしました。友達にちょっかいを出すことや大きな叫び声は、周りに迷惑が掛かってよくないことなどを話して聞かせました。

それと並行して、園庭に出たら、かえでの木の周りや園庭の外周を走ったり、「よーい、どん」の合図でかけっこをしたりしました。さらに、「むっくりくまさん」の遊びを取り入れたりしました。試行錯誤を繰り返し、数週間はかかりましたが、安全に体を動かすことも、友達との関わりも楽しめる落ち着いた遊び方ができるようになりました。



園庭に出たら、かえでの周りを走ろう



むっくりくまさんむっくりくまさん穴の中～



目を覚ました先生のくまさんに追いかけてもらって大喜び



たくさん走って遊び疲れた頃に先生も一緒に遊びの拠点を作って



この根っこは引っかかって転ぶと危ないから切っておこうね



私も仲間になって遊びながら遊び方や関わり方をナビゲート



場の作り方や遊び方や友達との関わり方のモデルを示していきます